

橋下政治 8年

▷下◁

「新たな改革勢力の結集」を掲げて橋下徹大阪市長(18日退任)が立ち上げた「おおさか維新の会」。その実像は、戦争法に反対する野党共闘を分断し、改憲を推進する安倍政権の別動隊です。

民意無視を絶賛

「憲法改正は絶対必要。ぜひ総理に実現してもらいたい。できることがあれば何でもしますよ」。橋下氏は1月、安倍晋三首相の悲願である改憲に全面的な支援を約束しました。その前日に関西テレビの番組に出演した安倍首相が、橋下「維新」の看板政策・「大阪都」構想に賛意を示したことに呼応した発言です。「都」構想が5月の住民投票で否決され、「政界引退」を明言した橋下氏。その後沈黙していたものの、

6月に安倍首相と会談した直後、突然、ツイッターで戦争法案についての発信を始めます。首相に法案への協力を要請された橋下氏は、当時所属していた維新の党全体を安倍政権の補完勢力とすることを目指しました。

ところが、9月の山形市長選挙の対応をめぐり、維新の党は分裂。きっかけは、戦争法案反対を主張し、日本共産党や民主党などが推薦する候補を当時の幹事長・柿沢未途衆院議員が応援したことでした。党顧問(当時)の松井一郎大阪府知事が「維新の党が共産党みたいなことを言い出したら、そこにいられない」と反発。橋下氏とも離党しました。

安倍政権の別動隊

改憲勢力入り宣言

「今の偽物の維新の党から、本物のおおさか維新の会をもう一度つくり直す」。橋下氏はこう強調しました。戦争法案に反対し、野党と共同で内閣不信任案を提出した維新の党を「偽物」とけなし、10月1日、正式に新党結成を表明したのです。

橋下氏は、戦争法反対のデモを敵視し、「あんなの

じゃ世の中は変わらない」「クソの役にも立たない」と攻撃していきます。

「産経」10月15日付インタビューでは、「安倍さんは集団的自衛権の行使、環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)を乗り越えた」と民意を無視した政治を大絶賛してみせます。

「憲法改正は我が党の考え方の大きな一つ。(おお

さか維新は)憲法改正に必要な3分の2の勢力の中に入る」。今月12日、新代表に就いた松井氏は、こう宣言しました。

保革超え共同を

「いずれ橋下徹氏の中央政界進出も含め、『おおさか維新』は安倍政権の改憲パートナーとして、私たちの前に立ちふさがってくるでしょう」と警告するのは、富田宏治・関西学院大学教授。自民党員対象の世論調査でさえ、明文改憲を急ぐべきでないが6割近くあり、「保革を超えた市民の共同を発展させることができれば、彼らの野望を打ち砕くことは可能だ」と指摘。そのうえで国政、地方を問わず一つひとつの選挙の重要性を力説します。

「おおさか維新」が勝負どころ」と位置付ける参院選は来夏に迫っています。

(おわり)

(この連載は、生島貞治、小浜明代、笹川神由が担当しました)



国政政党・おおさか維新の会の結党大会。橋下氏(中央)は法律政策顧問として党に関わると表明=10月31日、大阪市